

## 令和4年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を踏まえた改善の取組

### ① [国語]

多くの項目、学年で県平均を上回っている。4年生は、【言葉の特徴や使い方】【情報の扱い方、我が国の言語文化】で、5年生、6年生では【話すこと・聞くこと・書くこと】で県平均を若干下回った。

引き続き、全ての教科において言語活動のさらなる充実を図り、思考力、判断力、表現力を育成していく。また、学習のねらいを明確にすることで興味・関心を高めること、既習事項を想起させることで見通しをもたせること、学習内容を振り返ることで次の学習につなげられるようにすること等の支援を積み重ね、授業改善に取り組んでいく。

### ② [算数・数学]

算数・数学については、すべての項目、すべての学年で県平均、全国平均の正答率を上回っている。このような結果が出ているのは、各学校での「放課後算数教室」をはじめとした補習や、「和光市小学校少人数数学級推進教員」、「和光市小・中学校学力向上支援教員」等の配置による学力向上への取組の成果によるものと考えられる。

今後も、学習内容に応じてプログラミング教育を含めたICTの活用、チームティーチングや少人数指導を効果的に行い、さらに質の高い指導実践等を通して学力の定着を図っていく。また、算数・数学主任会等の研修の機会を活用しながら、学習内容について小・中の円滑な接続に取り組んでいく。

### ③ [理科]

すべての項目で、県平均、全国平均を上回った。

小学校では、「観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつこと」、中学校では、「実験の結果が考察の根拠として十分かどうか検討し、必要な実験を指摘して、実験の計画を改善できるかどうかをみる。」ことに苦手意識がある児童・生徒がみられた。

これからも問題解決的な学習過程を重視した指導を積み重ねるとともに、考察をする場面で思考する時間を十分にとることができるよう授業展開を工夫していく。

### ④ [英語]

英語については、全ての項目で県平均を大きく上回っている。これは、外国語指導助手とのチームティーチングによる言語活動の充実を図った授業を展開している成果が表れたものと考えられる。

今後、話す・書くアウトプットの活動に十分な時間を確保するとともに丁寧に指導していくことで、表現力を高めていけるよう取り組んでいく。

### [その他]

- 児童生徒の学習意欲や自己肯定感を高めていくために、日々の指導の中で、児童・生徒が質問項目に当てはまる行動をした際に、教師が意図的に価値づけを行ったり、キャリアパスポートをさらに充実させたりする等、市内各校の効果的な取組等を共有し、実践に向けた働きかけを行う。
- 各学校に対して学力調査の成果と課題について分析を促し、重点的な取組や課題解決のための方策を学力向上プランに明確に位置付け、組織的な支援を行う。また、各学校の取組について情報共有し、効果的な取組については積極的に市内に広めていく。
- 各学校の学力調査で明らかになった課題について、教育委員会・県学力向上推進担当が実施する計画的な学校訪問の機会を生かし、授業改善に向けた指導を行うことで、学習指導や生徒指導の充実を図る。